



Agenda

7 芸術・文化教育

一流の芸術・文化に触れ、生徒の感性を磨きます。

桐蔭学園は、芸術・文化に触れることは、生徒の人生を豊かにするととても大切な要素の一つであると捉えています。柔らかい感受性を持った10代のうちに、様々な分野の芸術・文化に触れることが生徒の創造性や教養を育み、生涯にわたって生徒の支えになると考えるからです。

桐蔭学園には、学内にオペラも上演できる本格的な舞台装置を備えた桐蔭学園シンフォニーホールがあり、松竹大歌舞伎やバレエ公演、劇団四季のミュージカル、国内外の有名オーケストラによる演奏会、映画鑑賞会など、年間を通して様々な質の高い芸術・文化に触れることができます。2014年度にはホール公演の一部としてプロの演奏者と生徒が共演する機会を設けました。今後も、生徒の心に響く鑑賞の場を充実させていきます。

各種企画展示を行う桐蔭学園アカデミウムでは、写真家岩合光昭氏の写真展や、桐蔭宇宙展と題した小惑星探査機「はやぶさ」に関する企画展など、生徒の好奇心を刺激する展示を定期的に行っています。

シンフォニーホールは、芸術鑑賞のみではなく、生徒の芸術活動の発表の場としても利用されています。吹奏楽部やダンス部といった部活動の公演に加え、毎年中学生の合唱コンクールが行われています。生徒たちはクラスごとに歌う曲を選び、互いにアイデアを出し合いながら練習を重ねます。本番はホール全体に生徒たちの澄んだ歌声が響き渡り、クラスで一つの作品をつくりあげた喜びとともに、生徒の心に残る行事となっています。

保護者の皆様や卒業生からの多くの鑑賞希望に応えるため、『桐蔭学園シンフォニーホール友の会』を運営しています。

落語の会

1993年から始まった桐蔭学園「落語の会」。年間約50回におよぶホール公演の中で、人気の高い公演のひとつです。落語に接するのが初めてという生徒も、軽妙な語り口や身振り手振りを使った表現の面白さに引き込まれ、最後の噺の「オチ」になるほど!と納得。普段あまり落語とは接点のない生徒たちも、日本の伝統芸能を身近に感じることができるため、毎回好評を得ています。この落語の会には、例年近隣の介護施設から高齢者の方々を招待しています。希望した生徒は事前に車いすの補助についての講習を受け、来場された40名程度の高齢者の方々と一緒に落語を楽しみ、落語を通して異なる世代の方々と温かな交流を図っています。

